

栃木県テニス協会
 総監督：阿久津定之

1. 大会概要

- ・日程 平成24年9月28日(金)～10月3日(水)
- ・会場 岐阜ファミリーパークテニスコート
岐阜メモリアルセンター
- ・主催 (財)日本体育協会・文部科学省・岐阜県
(財)日本テニス協会・岐阜市

2. 試合方法

- ・競技は、各種別それぞれ3ポイント(単2・複1)とし、その勝敗は獲得したポイント数の多少によって決める。
- ・試合は、各種別とも都道府県対抗のトーナメント方式で行う。
- ・試合はすべて8ゲームズプロセット、セミアドバンテージ方式とする。
- ・試合は1回戦より勝敗決定後に打ち切る。また、同時進行の場合も同様とする。

3. 参加監督・選手・トレーナー

総監督：阿久津定之

1. 成年女子 監督：渡邊千鶴 選手：斎藤美幸、阿部美貴
 2. 少年男子 監督：毛塚英樹 選手：油布将也、金子剛之
 3. 少年女子 監督：杉山 彰 選手：佐々木遥、関谷里佳子
- トレーナー：海老澤重一

4. 試合結果

成年女子 1回戦 対 福島県：10月1日(月)

	栃木県	- 1	福島県
S 1	斎藤美幸	4 - 8	穴戸絵美
S 2	阿部美貴	8 - 4	八島ちひろ
D	斎藤美幸 阿部美貴	9 - 8 (5)	穴戸絵美 八島ちひろ

2回戦 対 新潟県：10月1日(月)

	栃木県	1 -	新潟県
S 1	斎藤美幸	0 - 8	品田祐希
S 2	阿部美貴	8 - 4	植木千尋
D	斎藤美幸 阿部美貴	2 - 8	品田祐希 植木千尋

少年男子 1回戦 対 千葉県：9月30日(日)

	栃木県	0 -	千葉県
S 1	油布将也	4 - 8	村松勇紀
S 2	金子剛之	1 - 8	大和田秀俊
D	油布将也 金子剛之	打切り	村松勇紀 大和田秀俊

少年女子 1回戦 対 高知県：9月30日(日)

	栃木県	1 -	高知県
S 1	佐々木遥	8 - 3	前田彩華
S 2	関谷里佳子	6 - 8	沈 清河
D	佐々木遥 関谷里佳子	6 - 8	前田彩華 沈 清河

5. 所感

国体は前年度からプロ選手の参加が認められ、今年は男子が9名(昨年5名)、女子は5名(昨年0名)のプロ選手が出場し昨年より9名増えている。また、少年種別では、中学生の出場は女子が10名、男子が2名で例年通り女子の比率が高い状況であった。

今年は、大会初日から台風の接近で、午後から大雨となり成年の会場は中止、少年の会場も4面のインドアのみで大会が行われた。

成年女子は4年振りの本国体出場で、初戦の対戦相手は福島県との戦いでした。シングルス1の斎藤選手は、立ち上がりダブルフォルトとストロークのミスでいきなりブレイクされましたが、3ゲームをキープすると立ち直り、3 - 4と追い付くチャンスで相手のフォアハンドの逆クロスでエースを取られゲームを落とすと3ゲーム連取され3 - 7と追い込まれた。その後、サービスゲームをキープしたが4 - 8で敗れてしまった。続くシングルス2の阿部選手も立ち上がり、ストロークのミスが続き2ブレイクされ1 - 4とリードされたが6ゲーム相手のサーブを粘りノーアドをものにしてからサーブがコーナーに決まりだし、一気に7ゲーム連取し8 - 4と逆転で勝利した。これでダブルスに持ち込み、阿部選手のサーブから始まり、サービスエースでキープすると相手のサーブをブレイク2 - 0とリードしたが、その後お互いブレイクで3 - 2、6ゲームをブレイクすると3ゲーム連取6 - 2となり、9ゲーム阿部選手のサーブ、ノーアドとなりバックボレーで決まったかと思っただ、わずかにベースラインをアウト、その後お互いキープし7 - 4、相手のサーブ、デュースからマッチポイントを奪ったがスマッシュを2本決められ逆に4ゲーム連取され7 - 8と逆転を許した。相手のサーブをブレイクし8 - 8、タイブレイクも6 - 3で先にマッチポイントを奪い2ポイント連取で6 - 5、最後は斎藤選手のドロップショットが決まりゲームセット、これで、念願の初戦突破を果たした。

続く2回戦は、第7シードの新潟県との対戦でした。斎藤選手の対戦相手は日本リーグで活躍しているリコーの品田選手、6ゲームまでは一方的に試合が運ばれ、7、8ゲームはデュースまで持ち込んだゲームが奪えず0 - 8で完敗だった。続く阿部選手は積極的に攻め、相手のミスを誘い8 - 4で勝ち、再びダブルスに持ち込んだ。しかし、相手の品田選手にポーチされ、相手のペースで試合が進み0 - 6となってしまった。そこから、再び

攻め続け、サーブをキープしたが、前半のリードが響き 2 - 8 でベスト 8 を逃してしまった。

少年女子は中学 3 年の佐々木選手と高校 1 年の関谷選手の若いチームで臨みました。佐々木選手は立ち上がり緊張していたが、2 - 2 から 5 ゲーム連取して、8 - 5 で初戦突破、続く関谷選手もフォアのストロークが安定せず、1 - 5 とリードされ中盤相手の持ち直し 6 - 6 で追い付き、サーブをキープしてリードしたかったが、また、ストロークのミスが目立ちブレイクされ 6 - 8 で敗れてしまった。ダブルスも序盤、相手にリードされ中盤以降持ち直したが、前半のリードが響き 6 - 8 で敗れ初戦突破は出来なかった。しかし、若い二人なので良い経験になったと思う。

少年男子の相手は、千葉県で関東勢の戦いとなった。シングルス 1 の油布選手は昨年も出場しているので落ち着いて試合に臨み、お互いサーブをキープし 3 - 3、先にブレイクし 4 - 3 としたが、そこから、逆にブレイクされると一機に 5 ゲーム連取され 4 - 8 で落としてしまった。続く金子選手は、初めての国体で緊張もあったせいか、本来の力が出せず 7 ゲーム連取され、1 ゲーム返したが 1 - 8 で敗れ初戦を突破することが出来なかった。

今年も残念ながらどの種別もベスト 8 には届きませんでした。来年こそベスト 8 に残れる様、強化していきたいと思えます。これからも栃木県体育協会をはじめ、栃木県テニス協会のご支援、ご指導を今後ともよろしくお願いいたします。また、遠くまで応援に来ていただいた方には心から感謝を申し上げます。最後に選手をはじめ、監督、トレーナーの皆さん、本当にありがとうございました。